

下松市・記者発表（配布）資料

令和7年12月22日

部課名	課長	担当	連絡先（直通）
教育委員会 生涯学習振興課	戸高 孝文	林 弘幸	0833-45-1870
1. 件名	県内初鞍形埴輪の公開（報道機関向け）について		
2. 日時	令和8年1月13日（火）13：30～14：30（予定）		
3. 場所	スターピアくだまつ ハート・フロアー		
4. 内容	<ul style="list-style-type: none">○天王森古墳から出土した形象埴輪のうち鞍形埴輪（県内初）を2体復元しました。○上記2体の埴輪は1月20日（火）から下松タウンセンター「キラル」で開催されるイベントにも展示されます。○イベントでの展示に先立ち、鞍形埴輪について報道機関向けの公開を行います（イベント全体の公開ではありません）。○当日は、花園大学文学部教授の高橋克壽氏による解説を行います。		
5. 出土埴輪について	今回復元した鞍形埴輪について 別紙のとおり（解説文）		

天王森古墳の鞍形埴輪

天王森古墳から出土した鞍形埴輪は、これまで順次公開してきた大刀形や巫女や家形の各形象埴輪にもまして残存状態がよく、2体とも基底部から頂部までほぼ全形に復元することができた。鞍形埴輪は、県内初出土であるばかりでなく、完全な姿に復元された例は西日本ではきわめて数が少なく、今後の同種の埴輪の標準資料となりうる。Aは高さ106cm、Bは108cmである。

モデルとなった実物の鞍は、革製品であるため、遺跡から形を留めて出土することは前期の大型品を除けばほぼない。鞍は、矢じりを上に向けて矢を納めるもので、背負って持ち運ぶ。その様子は、群馬県太田市九合出土の国宝武人埴輪の背などにも表現されている。

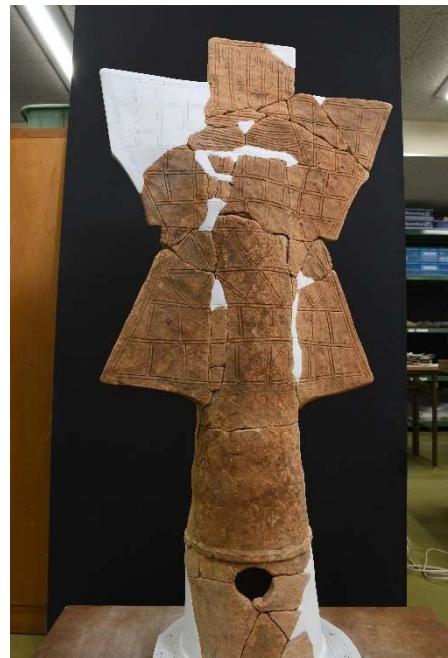
A・Bとも、円筒の胴体に板状の粘土を左右と上部に貼ることで奴彌形の輪郭をかたちづくり、上部の矩形部分に矢を線刻で表現する。2体とも木の葉形の矢じりが表されているが、Aはそれに応じて頂部を波打たせてあるのに対して、Bはそれを省略して直線的な上端仕上げとなっている。また、本体部分は、二条一組の線刻によって方形に分割された文様が全面に描かれている。

この形象部分を支える円筒形の台には一对の円形透かし孔があけられており、製作には倒立技法と呼ばれる6世紀前半の畿内に特有な製作技法が採用されている。

天王森古墳の今回復元された2体は、継体大王墓に比定されている大阪府高槻市今城塚古墳に埴輪を供給した新池埴輪窯跡から出土した例と酷似している。天王森古墳の埴輪を製作した工人（集団）は、継体大王の元で埴輪作りに従事した工人あるいは、そのような人物から埴輪作りを学んだ工人と推測される。



A



B